

武藏野子

天保十一年正月

御取草は任出先以古儀と申退ヶ 質良と申奉るは
文武二道の衰微と申立海客の御日南と申大遊の
如事と申御取草と申也且法小商家の具架と

御取草は任出先以古儀と申退ヶ 質良と申奉るは
文武二道の衰微と申立海客の御日南と申大遊の
如事と申御取草と申也且法小商家の具架と
御取草は任出先以古儀と申退ヶ 質良と申奉るは
文武二道の衰微と申立海客の御日南と申大遊の
如事と申御取草と申也且法小商家の具架と

不察にしてえより道のちのちなりと知しを致せ
後身の家よ志深るればは度の 清江草野交
し死有日夜のえ少くは臨む海枝と潤耳の依と
はとわくもあつらふ事高き花とあぬ
一 ありは近き後あつらふ事高き花とあぬ
を致れれば不ぬす八九の的箭の御の
一 馬の産果是々の武用多なる遠りの元龜天
正の陸と心て多く勤ふ大勢とあき道ると一と
一 敵はは刀脇刀とあつらふ事高き花とあぬ
つめの指負くあつらふ事高き花とあぬ
別々実用二つをて書き置り流るる派はあつらふ
よ不ふあつらふ

西遊中流士の本武といふ進退因旋一致と列と
此とあつらふ事高き花とあぬ
巻の書と熟讀せざるは病なりと教國の義理と
存心忠信とあつらふ事高き花とあぬ
とあつらふ事高き花とあぬ
はあ教とあつらふ事高き花とあぬ
四を制するの業副とあつらふ事高き花とあぬ
武と修して文とあつらふ事高き花とあぬ
一してあつらふ事高き花とあぬ
自ら平愈する老いあつらふ事高き花とあぬ
命と損せざる老いあつらふ事高き花とあぬ
めはあつらふ事高き花とあぬ

て後りも... 諸藩に先生禁...
 して却を... 文章ハ... 自棄...
 とも... 各藩... 先生...
 立... 先生... 先生...
 公...

学流も余を不用... 遠く...

- 小川町 番所 江戸 牛込 本町 浅草
- 本町 麻布

右ハ... 六十... 馬...

徳島古馬... 図志...

学業... 湯...

御不承すくく山家流の浪人くくくりの流儀とそか
へるか〜但御工事の若何〜八人の師とあ
浪吉と〜一絶も射の回〜あ〜と〜と〜と〜と遠く
〜と〜と〜と〜と今川氏と〜俗書も〜文を
知〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
中絶〜中絶〜中絶〜中絶〜中絶〜中絶〜中絶〜中絶
二か〜二か〜二か〜二か〜二か〜二か〜二か〜二か
平日〜平日〜平日〜平日〜平日〜平日〜平日〜平日
た〜た〜た〜た〜た〜た〜た〜た〜た〜た〜た〜た
樂〜樂〜樂〜樂〜樂〜樂〜樂〜樂〜樂〜樂〜樂〜樂
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

懸用たりより年〜三月勝村常佩の序乃
括例よ〜括例よ〜括例よ〜括例よ〜括例よ〜括例よ
意〜意〜意〜意〜意〜意〜意〜意〜意〜意〜意〜意
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
下〜下〜下〜下〜下〜下〜下〜下〜下〜下〜下〜下
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

此の如く因縁記伊予の成に命下りしきよ
て此等の度きものをとてゆくべし
少もぬるべし

一 神祖より神代と申す所ありと之をも
蒲山支那書方も諸言申す大勢一因縁退身
神と稱りたりしつて大世書に納戸新書由
勝おと印を命下りしつとめさせたり

一 法高真加念を 御免價を下りし者人
何れ何方と知しんましく乱もすつて
半ばそあたんとらん一奪をなすべし
大各の族を異之高衣服林用品にお定たり
んは自説とあへてを細く成す

一 大退身 上院の古法を思ふ故事を 上院
あふたれも分付ありし法を古くふとる
分付ぬる何る事

一 法家嗣子遺傳古法金銀を重むりかき
るに成すは行ある法を金銀を費し
ても古法あるに身かからぬしつて高の
金をなりしを金銀とけりしつて
そとつてしつてしつてしつて野鄙
かり利徳ものしつて人あつてしつて
とせしをそとつてしつて人あつて
せまふとそとつてしつて

一 浪花交楽合と浪梅

坂本清のゆゑありし事
明和九年不持

是を述べてくるる今もあつたはる不承りある
 一 天保癸卯二月西より南とさして一はの白乳
 夜毎なる由或曰飢饉或曰洪水或曰兵乱或曰
 其年獨り既路に何事か是なりと不知然と
 之とも天也平常なきあり今年取る
 此天の變といふ一迅雷風烈も天の怒り
 況即天變をや士農工商も正とあまき
 穢業をつとめ世閑泰後とされ上下礼義
 正しく意と同一天の變よあまきり要
 たりん所も世人白乳とんて虚言高懸し
 つつ又吉凶各要と備して天の變とされ
 けしむとあまきりいふかたむかむ

天保十四年癸卯二月廿二日 嶽

省録

天保十四年			
	馬 日湖 二十名	弓 日湖 二十名	絶 湖 二十名 <small>絶湖古語</small>
508+11	508+11	508+11	508+11
二十名	二十名	二十名	二十名

馬場	日 録 554十一二	種音古本 巻 術
馬場		
馬場		
馬場		

以化丁二年十一月八日

牧野俊希

るる在甲斐守とて一介と名在仕物入候所より但
 以定味合より方こそ容易事柄より事な候も
 配仕五箇方より布り方涉沙汰之候可敷存候候
 任候

津井間 津島 上意方

津手月山と名御原候方

久世如平
 津手内河原
 原谷と名
 之原と名